

3領域	6年間のゴール(ねらい)	年間目標〔令和3年度〕	活動	活動の評価		%	年間目標の評価	次年度の目標
				点数	理由			
共同体作り	一人ひとりが神様から愛されているかけがえのない存在であることを感じられるようになる	お友達の思いを受け止め受け入れることができる。	年長→自分と他者との考えの違いを認め合えるようになる。 年中→相手の気持ちを尊重し行動する 年少→相手の存在を認める。	年長	2	認め合うための必然的なトラブルが多かった。認め合うまで至らなかった。	30	<目標>お友達の思いを受け止め受け入れることができる 《活動》 年長 →相手の気持ちを尊重し行動する。 年中→相手の気持ちを大切に 年少→相手の存在を認める。
				年中	2	年度の終わり頃は随分と相手の気持ちを考えることができるようになってきたと思うが全体として足りない。	35	
				年少	4	お友達と楽しく遊びかかわる姿が見られた。	70	
宗教・精神的	子どもたちが自主的に祈り自分と他者を大切にすることができるような宗教教育の充実を図る。	神様のことを知る	正しい十字架のしるしを身につける。 神様のお話を読む。	年長	3	最後まで覚えられず毎回ばらばらで不安な表情の子がいた。	30	《目標》お祈りを大切に 《活動》正しい十字架のしるしを身につける 目的をもって祈る。
				年中	3	指導していたが身につくに至らない子もいた。絵本や紙芝居を嫁に事もあったが、宗教に対する思いは伝えていた。	55	
				年少	3	頑張ってきたと行おうとする姿勢が見られた。絵本・紙芝居は宗教行事に合わせて読み、思いを伝えた。	65	
文化・教育	職員はドン・ボスコの予防教育法を実践できるようになる。	ドン・ボスコの教育法の一つ「愛情」を大切に保育を行う。	自分が愛されていると感じる信頼関係を築く。	年長	5	一人一人に丁寧にかかわることができた。	90	《目標》子どもたち一人ひとりとゆったり過ごす。 《活動》子どもの要求に応えられるように準備する
				年中	4	愛情をもって子どもたちに接し、信頼関係を築くことができた。	95	
				年少	5	毎日一人一人に丁寧にかかわり信頼関係を築くことができた。	95	
	子どもたちが、いつ、だれにでも適切な挨拶ができ自分の言葉で気持ちを表現することができるようにする。	挨拶をする意味を知る。	姿勢を正して挨拶が出来るようになる。	年長	2	立ち止まってきちんとした挨拶ができず通り過ぎる子もいた。	70	《目標》挨拶を行う意味を知る 《活動》種瀬厳正して挨拶ができるようになる
				年中	3	指導をしてもできる子そうでない子がいて、一人一人へ対応し必要であった。	25	
				年少	2	挨拶はできるようになったが姿勢を正すことができずにだらけてしまう子も多い。	90	
社会的自立	子どもたちが日常生活の中で自信を持って最後までやり遂げる自立心と生きる力を身につけることができる環境をつくる。	一つのことを最後までやり遂げる力を身につける。	次の活動に行く前に事前の活動を終わらせる。	年長	2	一つの行動を最後まで終わらせることができない子がいた。	40	《目標》一つのことを最後までやり遂げる力を身につける 《活動》次の活動に行く前に事前の活動を終わらせる
				年中	3	事前に終了を伝えても切り替えられず気持ちに寄り添う必要な子もいる。	70	
				年少	4	順序だてて伝えることで見通しを立てることで、きちんと終わらせることができるようになってきた。	70	
	子どもたちが、自然や環境、人々とかかわりの中で、社会のマナーを知り身につけられるようにする。	社会のマナーを知り身につけられるようにする。	物を大切にする。	年長	2	本の取り扱いが雑であった。物の管理が苦手の子が多かった。	60	《目標》社会のマナーを身につけられるようにする。 《活動》ものや食べ物を大切にする。
				年中	2	物の他にも食べ物に対して感謝の気持ちを持つように伝えてきた。できる子とできない子、いろいろであった。	30	
				年少	4	自分の持ち物の管理はできるようになったが、園のおもちゃなど共有物の管理が投げるなど雑な面が見られた。	60	

NOTE: 活動の評価の点数《5—とてもよくできた(目標達成のために大きな効果が見られた) 4—よくできた 3—できた 2—あまりよくできなかった 1—できなかった》目標の評価の点数は、達成度をパーセントであらわしてください。(100パーセント達成できた場合は100)

園からの連絡がわかりにくいことがあったが、レーザーキッズの導入で連絡の回数が増えたので良かった。園にとっては毎年の事でも子どものこととしては年に一度の行事を頃中でも工夫して開催してもらえたことは良かった。これからも子どもの体験の機会を守ってほしい。職員の先生方は子どものことをよく見て保育をしてくださっていると思うが、保護者が園での様子をもう少し知れたらよい。これからも子どもたちのために力を尽くしてほしい。